

令和5年度（2023年度）

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（総合）分担研究報告書

拠点病院集中型の HIV 診療から、地域分散型の HIV 患者の医療・介護体制の構築

保険薬局の役割と地域連携に関する研究

研究分担者

鈴木 貴明 山梨大学医学部附属病院

薬剤部 部長

研究要旨

「患者が地域の保険薬局を選んだ時に対応できるシステムの構築」のため、保険薬局における HIV 薬の服薬指導・在庫管理の状況と課題を抽出ために抗 HIV 薬処方箋の応需数の少ない保険薬局を訪問した。また東京を除く関東甲信越の HIV 診療拠点病院ならびに抗 HIV 薬処方箋を応需している千葉県保険薬局薬剤師を対象に薬薬連携の課題抽出を目的としたアンケート調査を行うとともに、R3～5 年度に毎年、保険薬局薬剤師の HIV 診療および服薬指導のスキル向上を目的としたセミナーを開催した。

保険薬局ならびに病院薬剤師を対象としたアンケート調査より、病院および薬局薬剤師が必要とする情報の差異から病院薬剤師は薬局へ「服薬指導時の注意点」「抗 HIV 薬選択理由」「副作用」などを、薬局薬剤師は病院へ「服薬アドヒアランス状況」「相互作用」「生活スタイルの変化」などを伝えることが、薬薬連携のポイントとなることが明らかとなった。また「保険薬局の役割と地域連携セミナー」の開催することで、参加者の知識と服薬指導スキルの向上できることが明らかとなった。なお保険薬局における抗 HIV 薬服薬指導のポイントをまとめた冊子を作成し、アンケート協力薬局および全国の HIV 診療拠点病院に配布した。

A. 研究目的

強力な抗ウイルス療法（ART:Anti Retro virus Therapy）により、HIV 感染症は長期生存が可能な疾患となった。この結果、HIV 感染症患者の高齢化が確実に進み、HIV 感染症患者に求められる医療も多様化してきた。現段階では HIV 拠点病院集中型の診療を行っているため、抗 HIV 薬の調剤は HIV 診療拠点病院周辺の保険薬局を中心に行われている。しかし、HIV 感染症患者の課題に対応するために、HIV 拠点病院と地域の医療機関との連携を重視した診療体制を構築することが必要になってきており、今後地域連携が推進された場合、患者が地域の保険薬局での調剤を希望することも想定される。このような場合に備えすべての保険薬局がスムーズに抗 HIV 薬の調剤に対応できる必要がある。

本研究では千葉大学医学部附属病院（以下、当院）の近隣薬局以外で抗 HIV 薬の処方箋を応需している保険薬局への訪問により、抗 HIV 薬の処方箋の少ない保険薬局における抗 HIV 薬の服薬

指導・在庫管理の状況と課題の抽出を目的とした。また、抗 HIV 薬の処方箋を応需している千葉県下の保険薬局薬剤師と関東甲信越（東京都を除く）の HIV 診療病院勤務薬剤師に対するアンケート調査により、HIV 診療病院と地域の医療機関である保険薬局との連携の課題を抽出すること、さらに保険薬局薬剤師を対象としたセミナーを開催し、HIV 診療における薬薬連携や保険薬局での服薬指導について情報提供することを目的とした。

B. 研究方法

千葉県市川市、東金市にて当院感染症内科から1～2名の患者について抗 HIV 薬処方箋を応需している3店舗を訪問し、普段の抗 HIV 薬在庫管理方法、ならびに服薬指導の実施環境、服薬指導の実施状況を実地調査した。

R5 年 3 月に「抗 HIV 薬処方に対する病院-保険薬局の連携体制に関するアンケート調査」を実施した。調査対象は、抗 HIV 薬処方箋を応需している、千葉県下の保険薬局 105 店舗の薬剤師、なら

びに東京都を除く関東甲信越の HIV 診療病院 84 施設の薬剤師とした。調査項目は施設概要、薬薬連携、病院間連携であり、回答は WEB にて収集した。本アンケート調査は千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会の承認（承認番号：M10568）を受けて実施した。

R3～5 年の 3 年間連続、「保険薬局の役割と地域連携セミナー」を WEB 開催した。2023 年は「長期療養を見据えた新たな抗 HIV 療法・変わらない服薬指導」をタイトルとし、本研究代表者の猪狩医師から地域の保険薬局に求められる抗 HIV 薬処方知識について、千葉医療センターの田中薬剤師から薬剤師主導による持続注射剤導入患者への関わりについて、とまと薬局千葉中央店の倉田薬剤師から保険薬局での服薬指導の実際について、3 講演で構成した。参加の対象は、千葉県下で抗 HIV 薬処方箋を応需している 105 薬局に勤務する薬剤師とした。セミナー開催前後に参加者へアンケートを実施し、「HIV 治療について理解している」、「抗 HIV 薬の服薬指導に自信がある」、「HIV 感染者へ服薬指導することに抵抗がある」の 3 項目に対する意識の変化を 5 段階評価で調査した。アンケートは匿名性が保証されること、回答されなくても不利益を被らないこと、研究目的以外の使用をしないこと、結果はエイズ関連学会や報告書などで報告されることを文書で説明し、同意を得たうえで回答を得た。

C. 研究結果

保険薬局の訪問により、高額である抗 HIV 薬は在庫せず、処方を応需してから発注する、あるいは受診予約日を聞いて取り置いておくなど、不良在庫が発生しないように各薬局独自の対応を取っていることが明らかとなった。また個室の設備はなくほぼオープンなカウンターのみの服薬指導環境のなかで、他患者が少ない時間帯での来店を案内する、少し奥まった場所で詳しい話はするなど、薬局ごとに柔軟に患者指導を行っていることが明らかになった。一方で「患者はいろんなことを話してはくれるが、どんなことを聞けばいいかわからない」といった服薬指導上の課題も明らかになった。さらに薬局にとってトレーシングレポートはハードルが高いという、薬局-病院の情報連携の課題も明らかになった。

「抗 HIV 薬処方に対する病院-保険薬局の連携体制に関するアンケート調査」は 39 店舗の保険薬局薬剤師（回答率 37.1%）、および 55 施設の病院薬

剤師（回答率 64.7%）から回答を得た。病院全体としての院外処方発行率は 93%であったが、抗 HIV 薬処方に限ると院外処方発行率は 65%であった。さらに病院から保険薬局へ抗 HIV 薬について情報提供がなされていた病院は 31%であった。薬局の立場からは情報提供が必要と思われるが、病院が提供していない情報として薬剤選択理由、副作用、服薬指導のポイントが抽出された。また病院が必要と思うが、薬局が提供していない情報としてサプリメント、相互作用、生活スタイルが挙げられた（図 1）。

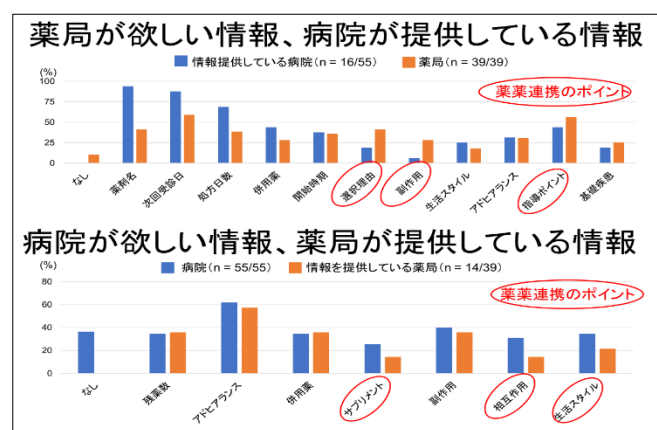
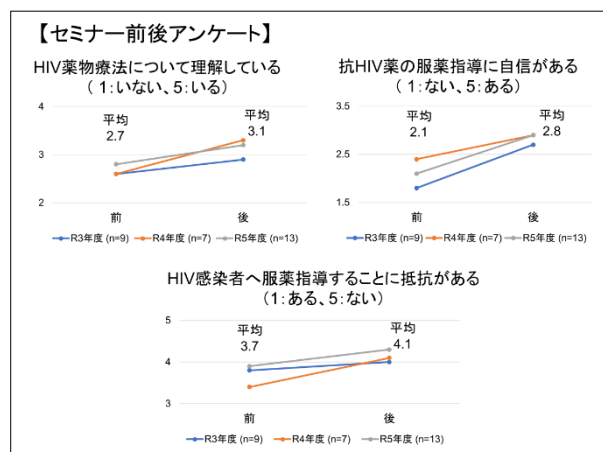


図 1. 病院および保険薬局が提供している情報と欲しい情報

病院に情報提供をしている保険薬局薬剤師は勉強会 (28.6%) や情報交換会 (14.3%) に参加し、病院に情報提供していない保険薬局薬剤師も勉強会 (32.0%) や情報交換会 (4.0%) に参加していた。薬局に情報提供をしている病院薬剤師は、会議 (52.9%)、研修会 (23.5%) など、また薬局に情報提供をしていない病院薬剤師は研修会 (28.9%)、勉強会 (18.4%) など、また他の HIV 診療病院薬剤師との交流していた。薬局から病院への情報提供方法として 20.5% でトレーシングレポートが活用されていたが、このレポートに対し病院から薬局へ 68% が無回答であった。この結果を受け、当院からの抗 HIV 薬処方を多く受けている近隣薬局を対象として、病院-薬局双方のやり取りが可能な情報提供書の使用を試みた。その結果、病院からの情報提供に対して薬局から 60～100% の回答があった一方、薬局間による患者への服薬指導体制の違いも浮き彫りになった。

R5 年開催のセミナーへは、32 施設から 36 名の参加があった。セミナー開催前後のアンケートにはセミナー開催前 37 名、開催後 24 名の回答があ

った。アンケート結果（数値：平均ポイント）は、「HIV 治療について理解している（1 全く理解していない～5 よく理解している）」は開催前 2.9、開催後 3.3、「抗 HIV 薬の服薬指導に自信がある（1 全く自信がない～5 十分に自信がある）」は開催前 2.4、開催後 2.9、「HIV 感染者へ服薬指導すること



に抵抗がある（1 大いに抵抗がある～5 全く抵抗はない）」は開催前 4.0、開催後 4.2 であった。R3～5 年の 3 年間に開催したセミナーにおいて、開催前後両方のアンケートに回答した参加者からの評価は、いずれの年も開催後に評点が上昇していた（図 2）。

図 2. セミナー前後アンケート結果(R3～5 年)

参加者からは、「HIV について理解が深まった。」「地域で患者様を支える一躍を担えるよう努力したい。」「普段から抗 HIV 薬を調剤、服薬指導する機会を頂いているが、先生方のお考えを拝聴し改めて勉強したいと思い、微力ながらお役に立てるよう頑張りたいと思った。」「注射薬に変更した患者さんは、ご本人の希望を優先したのかと思っていたが、過去にアドヒアランスがよくて通院の変更歴がない患者さんを選んだという説明を聞いて変更時のスケジュール管理の苦労がよくわかった。」との感想が寄せられた。

なお、本研究で明らかとなった薬業連携のポイントならびに千葉県 HIV 診療拠点病院会議薬剤師部会で協議した服薬指導のポイントを盛り込んだ保険薬局薬剤師向けの「服薬指導 Point guide」を作成し、「抗 HIV 薬処方に対する病院-保険薬局の連携体制に関するアンケート調査」協力施設および全国の HIV 診療拠点病院薬剤師へ配布した。

D. 考察

保険薬局への訪問により、保険薬局における抗

HIV 薬の在庫管理において病院からの処方情報は必須であり、また保険薬局薬剤師は患者の背景をさりげなく探りながら服薬指導をしているため、病院からあらかじめ患者背景などを情報提供していくことが必要であると考えられた。また今後は保険薬局での服薬指導において重要となる項目や情報などを啓蒙していく必要があると考えられた。またハードルの高いトレーシングレポートに変わる、薬業連携が取りやすいツールを検討していく必要があると考えられた。

薬業連携に関する保険薬局ならびに HIV 診療病院薬剤師へのアンケート調査結果から、病院薬剤師は、薬局や他病院薬剤師と抗 HIV 薬に関する交流を行うと、双方向の情報提供がしやすくなると推察された。また病院薬剤師は薬局へ「服薬指導時の注意点」「抗 HIV 薬選択理由」「副作用」などを、薬局薬剤師は病院へ「服薬アドヒアランス状況」「相互作用」「生活スタイルの変化」などを伝えることが、薬業連携のポイントとなると示唆された。さらに情報提供書の試用を重ねていくことで、病院からの情報提供ならびに薬局での服薬指導体制の変化が期待できると考えられた。

セミナー開催前後のアンケート結果では 3 項目とも平均点が開催後に上昇していたことから、セミナー後には HIV 治療について理解し、服薬指導に自信が付き、HIV 感染者へ服薬指導することへの抵抗が減ったものと考えられた。特に、服薬指導への自信についての変化量が 3 項目中最も大きかったことから、本セミナー開催が薬局薬剤師の抗 HIV 薬服薬指導において有用であったと推察された。今後は病院および薬局薬剤師両者からの実例報告を盛り込み、定期的にセミナーを開催していくことで参加者の知識向上に貢献できると考える。

E. 結論

保険薬局訪問により、HIV 診療病院の近隣ではない患者の生活圏に近い小規模保険薬局では、各店舗独自の工夫で高額である抗 HIV 薬の在庫管理、ならびに患者服薬指導を模索・実施していること、またその実施には処方元である病院からの情報提供が必要であることが明らかとなった。

薬業連携に関する保険薬局ならびに病院薬剤師に対するアンケート調査から、病院薬剤師は薬局へ「服薬指導時の注意点」「抗 HIV 薬選択理由」「副作用」などを、薬局薬剤師は病院へ「服薬アドヒアランス状況」「相互作用」「生活スタイルの変

化」などを伝えることが、薬薬連携のポイントであることが明らかとなった。

抗 HIV 薬の処方箋を応需している保険薬局薬剤師を対象としたセミナーは毎年、セミナー開催後には参加者の知識と服薬指導へ理解が向上しており、今後の保険薬局薬剤師の抗 HIV 薬服薬指導に有意義であったことが明らかとなった。

F. 研究発表

1. 論文発表

Yusuke Sekine, Takashi Kawaguchi, Yusuke Kunitomo, Junichi Masuda, Ayako Numata, Atsushi Hirano, Hiroki Yagura, Masashi Isihara, Shinichi Hikasa, Mariko Tsukiji, Tempei Miyaji, Takuhiro Yamaguchi, Ei Kinai, Kagehiro Amano. Adherence to anti-retroviral therapy, decisional conflicts, and health-related quality of life among treatment-naïve individuals living with HIV: a DEARS-J observational study. *Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences*. 9(9), 2023

Masashi Ishihara, Shinichi Hikasa, Mariko Tsukiji, Yusuke Kunitomo, Kazuko Nobori, Takeshi Kimura, Kenta Onishi, Yuki Yamamoto, Kyohei Haruta, Yohei Kashiwabara, Kenji Fujii, Shota Shimabukuro, Daichi Watanabe, Hisashi Tsurumi, Akio Suzuki. Assessment of satisfaction with antiretroviral drugs and the need for long-acting injectable medicines among people living with HIV in Japan and its associated factors: a prospective multicenter cross-sectional observational study. *AIDS Research and Therapy*. 20(1):62, 2023

2. 学会発表

口頭発表

築地茉莉子、鈴木貴明、菅谷修平、猪狩英俊、石井伊都子. 抗 HIV 薬処方に対する病院-保険薬局薬剤師の連携体制に関する横断研究. 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、032-4、京都、2023 年 12 月 3～5 日

登佳寿子、日笠真一、石原正志、築地茉莉子、國本雄介、木村丈司、山本有紀、治田匡平、柏原陽平、藤井健司. HIV 感染患者における抗 HIV 薬と併用薬の使用状況及び抗 HIV 療法の治療満

足度との関連：患者報告アウトカム多施設共同研究. 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、010-3、京都、2023 年 12 月 3～5 日

國本雄介、日笠真一、石原正志、築地茉莉子、登佳寿子、木村丈司、山本有紀、治田匡平、柏原陽平、藤井健司、福土将秀. インテグラーゼ阻害薬を含む STR 服用患者における服薬不遵守の危険因子：患者報告アウトカム多施設共同研究. 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、010-5、京都、2023 年 12 月 3～5 日

木村丈司、日笠真一、石原正志、築地茉莉子、國本雄介、登佳寿子、山本有紀、治田匡平、柏原陽平、藤井健司. HIV 感染患者におけるウイルス抑制とその関連因子：患者報告アウトカム多施設共同研究. 第 37 回日本エイズ学会学術集会・総会、013-5、京都、2023 年 12 月 3～5 日

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし